

国際ドイツ語オリンピック 2016 参加報告

早稲田大学高等学院 3年

阪井 健人

2016年7月17日から30日まで、ベルリンで国際ドイツ語オリンピック 2016 (Internationale Deutscholympiade, IDO)が開催されました。国内予選を勝ち上がった64カ国から125人の生徒が、首都ベルリンの地で"ドイツ語世界一"の座を目指します。日本代表として、私はKotaとChihiro-sanと一緒に、今回のIDOに参加してきました。

オリンピックでは3つの課題があり、審査員によってそれぞれ点数が付けられます。入賞者はその総合成績によって決められます。1つ目は個人で作る壁新聞です。私はベルリンの建築物に興味を持ったので、東京との比較を交えて壁新聞を仕上げました。たった3時間で、文法に気をつけながら記事を書くだけでなく、さらに絵・写真や色鉛筆を使って美しく仕上げる必要もあり、難しい課題だったと思います。2つ目は4人グループでの発表でした。3時間の準備で10分程度の発表を行わなければなりません。テーマは予め与えられますが、発表の形式は自由でした。ですので、私のグループは劇を発表しました。母語が違う人たちと、ドイツ語で会話しながら一つの劇を作り上げるのは大変でした。ただ楽しくもありました。3つ目は発表と同じグループで行うクイズです。ただ、我々が考えるようなクイズとは異なります。ポストカードに描かれた絵の内容を、画家さんに出来るだけ正確に説明する、というものです。重要なポイントは、全員が発言することです。伝える内容を分担しなければ、良い評価はもらえないません。つまり発表の課題と同様、チームワークが成功のカギでした。

競技の合間にも沢山のFreizeitprogrammが組まれていました。国会議事堂やベルリンの壁の見学、Alexanderplatzでの買い物やダンスなど、全てのプログラムが私にとってワクワクするものばかりでした。さらに週末にはポツダムに行き、友達たちと1日観光を楽しみました。特に印象に残っているのは、夜の公園で行われる映画鑑賞会に行ったことです。「屋外」であること以外は日本の映画館とほぼ同じです。入場にチケットは必要ですし、ポップコーンなどもスクリーンそばの売店で買うことができます。しかし「屋外」であるがゆえ、なかなか面白いことも起きます。例えば上映中にヘリコプターが上空を爆音で通過しますし、だんだんと外が肌寒くなっていきます。ただ映画の途中でも気軽に売店に行くことが出来るのは素晴らしい点ですね。残念ながら映画の内容の全てを理解することは出来なかったですが、日本ではたぶん出来ないちょっと不思議で素晴らしい体験でした。乗り物や徒歩で移動している時も、他国の参加者と色々なことを話しました。日本に関する事では、「和食」や「アニメ」が話題に挙がることが多かったです。ただ、彼らの質問に対して十分に答えられなかつた時があったのは残念でした。他国について見聞を広げることが出来た瞬間であり、また自国に関する知識をもっと身に付けなければならないと感じた瞬間でもありました。

Länderabend と Jahrmarkt der Kulturen では、各国が自分の国に関する発表をします。特に "Jahrmarkt der Kulturen" はドイツ技術博物館の中で行われ、多くの観衆と来賓の前で発表しました。日本チームは、Kota が道着を着て空手を、そして私は法被を着てソーラン節を披露しました。お互い 1 分ほどの発表でしたが、迫力のある動きと特徴的な衣装のおかげで聴衆の印象に強く残ったようで、少しホッとした。終わった後に、衣装について質問してくれたり、ソーラン節の踊りを教えて欲しいと言われたりしたのが、とても嬉しかったです。日本の文化を他国からの参加者に少しは広めることができたので、誇りに思っています。

部屋で音楽を流して騒いだり、外でふざけた写真を撮ったりと、子供のようにはしゃいだ時もあれば、将来の夢について、楽しく、時には熱く語り続けた時もあった。そんな最高の友達と過ごせた 2 週間は忘れられません。新しくできた最高の友達こそが、このオリンピックで私が手に入れた「賞」だと感じています。本当にありがとうございました。



Foto: Unser Gruppenfoto vor dem Brandenburger Tor

写真: ブランデンブルク門の前での集合写真